

ほっこりだより

第 80 号 2017 年 3 月 19 日 発行

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本 6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

内向きから外に向かう

●西郷隆盛の「敬天愛人」

幕末の維新期に活躍した西郷隆盛は、聖書を読み、人に教えていたという証言があります。そして、西郷が説いた「敬天愛人」という言葉は、聖書中の言葉から出典されたと言われています。

その意味は、天におられる神を敬い、隣人を愛することにあります。

自分の敵を愛し、

迫害する者の為に

祈りなさい。

それでこそ、天に



おられるあなたの方の父の子どもになれるのです。天の父は、悪い者にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせて下さるからです。」

聖書

●隣人を愛する例話があります。

聖書に、そのことを教える有名な例話が書かれています。それは、良きサマリヤ人のたとえにであります。

簡単に話しますと、旅をしていた一人のサマリヤ人が強盗に襲われ、金品を奪われた上、瀕死の重傷を負って道端に倒れている旅人を見つけました。

良く見ると、ユダヤ人でした。当時、ユダヤ人は、サマリヤ人を嫌って付き合いを避けていたのです。もともと同じ国民でしたが、歴史の中で交流が途絶えました。

何人かの同じユダヤ人の旅人は、無視して通り過ぎました。しかし、サマリヤ人は意を決して、介抱し、宿まで連れて行きました。さらに手持ちのお金を宿主に渡して頼み、先を急ぎました。聖書は教えています。『本当の隣人は、このよくな人です。』

●内向きの愛から

外向きの愛へ。

現代社会の問題は、自分を守ることに、自国を守り、人々に利益を還元する考えに傾き始めています。

他人のことを考えていたなら、負けてしまふ、貧しくなることを心配するのです。

某国のリーダーが「自国主義」を主張しているように、不安を感じるのではないのでしょうか。

しかし、本当の幸せや平和は、助け合うこと、隣人を愛することから生まれるのです。日本には、相手をもてなすことや相手の気持ちを察すること」を大切にする文化があります。

向日市のボランティア

サークルに入っていますが、とても楽しい時になります。

家族や友人、隣人の中で外に向かつて愛の行動をするなら

皆が幸せになります。また、他の国の人とも、平和に過ごすことができるでしょう。



短歌

世界にはあつはならぬ事ばかり
二ノスの中に雪降りしもの

ワインレッドの似合う娘となりけり
心意気だとい薄ものを着る

俳句

道ゆすり目礼かわす冬の朝

前線の雲の真中を冬將軍

古都葉

イベントのご案内

◎「お茶会」

5月21日(日)午後1時より

◎「チェロ演奏会と賛美礼拝」

6月11日(日)午前10時半より

◎「聖書講演会」

7月23日(日)午前10時半より

お気軽にお出かけください。

新来者は無料です。

定年退職を迎えて

◎これまでを振り返り感謝しています。

会社勤めのサラリーマン生活を四十二年、六十歳を過ぎて定年を迎えました。幸い、嘱託勤務が出来て減給になりましたが、働いています。これまで、無我夢中で働いてきました。子供たちも社会人となり、肩の荷は降ろせましたが、老後の生活を考えると、元氣な間は、仕事をしようと考えています。

ただ、今までのようにガムシヤツに仕事に向かうのではなく、家族や夫婦の時間、自分の時間を大切にしたいと思っています。

私は、信仰を持って三十年近くになりますが、会社勤めの中で大きな助けとなりました。それは、会社の業績が上がらず、大きな借金を抱え、倒産を覚悟した時でした。経理担当だった私は、社長と一緒に銀行を回り、融資を頼みに行きました。断られることを覚悟したのですが、会社の社員のため、家族のため神に祈り、誠心誠意、状況を説明しました。その結果、融資が認められ、倒産を免れることが出来ました。

神は真実な方です。試練を通して脱出の道を備えてくださる。聖書

このことを実感し、感謝しました。これまでを振り返り、怪我や病気をしましたが、守られてきたこと。そして、大変な時も文句を言わずに協力してくれた妻に感謝しています。

◎希望を持って新しい出発をします。

私は、忙しいサラリーマン生活を送りながら、日曜日には教会に行き、聖書の言葉や周囲の仲間たちを通して、心身ともにリフレッシュすることが出来ました。また、自分の事だけでなく、他の困った人や弱い人の相談に乗ることも出来ました。教会と共に歩めたことは私の財産です。人生の支えです。

私は、以前はギャンブルに走り、家族を顧みない者でした。夫婦仲も険悪になりました。その時、クリスチヤンの母が心配して近くの教会に誘ってくれたことから、自分の傲慢さや自己中心の考えに気づかされ、イエスキリストを救い主として信じました。

これからは、妻や子供たちが信仰を持てるよう祈って行きます。定年は、終わりではなく、第二の人生の出発の時と考えています。賢くも、健康に注意し家族仲良く過ごしたいと思っています。

信仰こそ旅路を導く杖、弱気を強むる力なれや

讃美歌

A K

宗教改革五百年記念

今年、一五二七年にドイツの司祭であり神学者であったマルチン・ルターが行った宗教改革から丁度五百年になります。

その当時、ローマ教皇庁から大聖堂建設献金と名目で贖宥状（免罪符）が売られました。「この札を買ったことで罪の償いが行える。」と伝えられました。

しかし、それはローマ書にある又は善行でなく信仰によるのみ義とされる。二と大きく異なっています。ルターは罪の悔い改めなしに罪の償いができるという考えに反対し、一五二七年十月三十一日に九十五箇条の質問状を城教会の門扉に公表し、違いを正そうとしました。

その後一五二〇年に発表した三つの書簡には、聖職位制の否定、聖書に根拠のない秘跡の否定、そして人間が制度や行いに囚われるのではなく信仰によるのみ義とされるという持論を聖書の引用をもっと主張しています。ルターはただちに破門され、裁きの場に立たされ、撤回を求められました。



ルターの肖像



城教会の門扉

しかし、彼は、われは聖書の上に立つ。神よ、助けてまえ」と耐えました。ルターの叫んだ改革により、プロテスタント教会の源流が作られ、ヨーロッパの国々に拡大しました。ルターはその他、自国語に聖書を翻訳することや新聖歌二八〇番など数多くの讃美歌を作詞作曲しました。

私たちも、聖書から離れた信仰にならないよう、自らを点検する一年としたいと思います。

長い間、ご覧いただき感謝します。都合で、しばらくの間、休刊させていただきます。

